

広報改革について(プレスリリース資料)

20. 5. 2

コーポレート・コミュニケーション戦略(CC)チーム

大臣官房広報課

1. 新たなCI戦略の展開・広報広聴憲章の策定

- ◆ **広報・広聴憲章を策定** : 広報・広聴の目的を達成し、広報・広聴の効果を高めるため、広報広聴憲章を策定

国土交通省広報広聴憲章

憲章1: 私たちは、わかりやすい広報に努めます

簡潔で適切な表現に努め、国民のみなさまに必要な情報を提供します

憲章2: 私たちは、国民のみなさまの声に真摯に耳を傾けます

広く意見を聴いて、政策の立案に反映させます

憲章3: 私たちは、一人ひとりが国民のみなさまのための広報・広聴を心がけます

取り組みの効果を把握し、評価・改善していきます

- ◆ **CI戦略の展開** : 国土交通省としての一体感・統一感を打ち出すため、CI戦略としてイメージカラーや各種デザインを作成

英語略称「MLIT」のロゴを作成！

- 職員からデザインを公募し
職員投票により決定

■ カラーバージョン (ホライズンブルー) ■



■ 白黒バージョン ■



新デザインの名刺、封筒、講演用PowerPointテンプレートを作成！

<国土交通省のイメージカラー>



『ホライズンブルー』

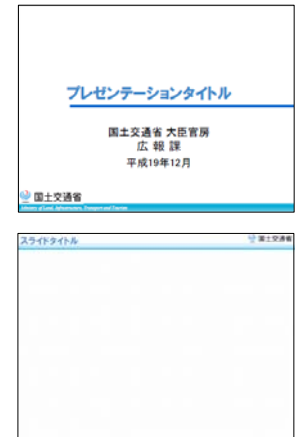
公正さ・透明さのメッセージと、未来への希望の思いを込めて選定。

- イメージカラーを基調にした統一感あるデザイン展開

■ 封筒 ■



■ PPTテンプレート ■



2. ホームページの改善:5月2日 リニューアルオープン 国土交通省

新しい国交省HPTトップページ



国土交通省ホームページの改善点: 「使いやすさ」と「わかりやすさの向上」

< 具体的な改善ポイント >

- ① 省トップページの1ページ目の情報量を多く、政策分野や重要なバナーも、ひと目でわかるよう、トップ表示するとともに、省トップページ全体を2ページに集約
- ② 各局ページにおいても、色・デザイン・レイアウトの統一感を醸成
- ③ パンくずリストや、グローバルナビゲーションを新設するなど、利用者の操作性(ユーザビリティ)を向上
- ④ ユニバーサルデザインの観点から、文字サイズを変えて見たい人や、高齢者、障害のある方などに配慮しアクセシビリティを向上
- ⑤ 「トピックス」、「新着情報」がPC立上げ画面に必ず表示されるよう配置

3. パンフレット作成・イベント周知、広聴機能強化等

◆パンフレットの作成・利用・活用

国土交通省について広く周知を図るため、ニーズに応じてパンフレットを作成しました！

- ◇中学生以上向けの概要版(A5版)
- ◇一般向けの詳細版(A4版)

さらに、小学生向けのキッズ版パンフレットも作成してまいります！



概要版表紙

詳細版



◆省内イベント・地方イベントの周知

省内見学ツアー、出前講座、施設見学等について、文部科学省と連携し周知を図りました！

- ◇教育関係者向け広報誌への掲載
- ◇教育委員会・各小中学校の教職員向けメールマガジンへの掲載



放課後子どもプランHP (文部科学省)に掲載
<http://www.houkago-plan.go.jp/>

◆広聴機能の強化等

- ・インターネットモニターやホットラインステーションの継続的活用
- ・職員の広報マインドの醸成に向けた研修の充実

- ・定期的な外部評価の実施

◆省内情報基盤の拡充(新しいイントラネットの立上げ)

＜平成20年7月目途に新しいイントラの運用を開始＞

- ・新しいイントラには、職員間で共有すべき情報や業務上必要な機能を、現行イントラから大幅に拡充して掲載
 - ・外局、地方局を含めた全職員による本省イントラの閲覧が可能
- 組織全体の動きや政策の方向性について、職員間の情報共有を促進

4. 広報改革で期待される効果

国民の皆様へ信頼され、自らの職場に誇りを持てる国土交通省に向けて

内部職員のモチベーションの向上

双方向・組織内コミュニケーションの強化

外部の評価・評判(レピュテーション)の向上

広報改革

改革スローガン『変わります！国交省の広報・広聴』

- ①関係者に対する情報提供・情報収集・評価・ニーズ把握に加え、広く国民との関係を構築
- ②国民・社会から求められている行政(施策・手法)を実現
- ③広報によって良い施策を生み出すための好循環を形成(⇒外部の評価・評判(レピュテーション)の向上と職員満足度の向上)
- ④国民の皆様へ信頼され、また自らの職場に誇りを持てる国土交通省を目指す

- ①国土交通省の施策を、ありのままに情報発信
 - ②正確で、わかりやすい情報提供
 - ③国民の声を収集・把握
 - ④評価された点を組織内で共有するとともに、悪い評価・反応を受けた点は、なぜ批判を受けるのかを吟味
 - ⑤施策・伝え方を見直していく
- ↓
- 施策の質的向上へ！**

